

— ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかりやすい授業づくり」 —

「誤り」の伝え方を工夫しよう！



【指導室 特別支援教育班】

葛南教育事務所では、令和4年度葛南教育事務所重点目標の一つとして、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた『わかりやすい授業づくり』」を掲げています。今回は、「誤り」の伝え方について考えてみます。

授業の中で、児童生徒が回答を誤ったり、指示を誤って理解し、教師の思いと違う行動をしたりすることがあります。そのような時、教師はどのように対応しているのでしょうか。

誤った学習をしないために、誤りに気付かせ修正することが大切ですが、「間違ってしまった」「叱られた」という思いを児童生徒が強くもつと、意欲や自信を失うことにつながってしまいます。中でも、学習面で誤回答が多い児童生徒や、情報の受け止め方に特性のある児童生徒にとっては、毎日「誤り」を指摘され続けることは大きなストレスとなり、心身の不調につながって行ってしまいます。

学校を訪問すると、否定的な表現をせずさりげなく誤りを児童生徒に気付かせたり、意欲を高めながら繰り返し考えさせたりすることが得意な先生に出会います。

伝え方の工夫一つで受け止め方が大きく変わるということを意識して、様々な工夫をしながら、児童生徒との良好な関係を築いていきましょう。

Point 1 ～言葉掛けの工夫～

★「違います」と言わなくても、児童生徒が自分で誤りに気付いたり、もう一度取り組んでみたりできるような投げ掛け方を工夫します。

★誤りを指摘する前に、まずは一旦、何か良い面について評価し認める言葉を掛けることも大切です。



間違っています。
ここが違っているよ。
なんで間違えたのかな？
そうじゃありません。
〇〇するとは言っていない。
また違うことをしていますね。
話をちゃんと聞いていましたか？



また間違えた。
また叱られた。
もうやりたくない。
恥ずかしい。
また次も間違えるんだろうな。
よく考えたつもりなのに。
頑張ってもどうせダメなんだ。

CHANGE!

(誤ってはいるけれど…)
頑張って書いたね。
きれいな字だね。
なるほど！
よく考えていたね。
おもしろい考えだね。
ここまでできたんだね。
全部やってみたんだね。
元気がいいね。
いい姿勢だね。

やった！

ここが難しいよね。
もう一つ考えてごらん。
もう一度やってみよう。
もう一つ書いてみて。
〇〇と比べてみよう。
こういう考え方をするとどうなるかな？
次は〇〇してみよう。
このあたり、よく見てみて。
〇〇すると、もっと素敵になるね。

もう一度やってみる！
あ、ここが間違っているぞ。
もっと素敵にしたい！

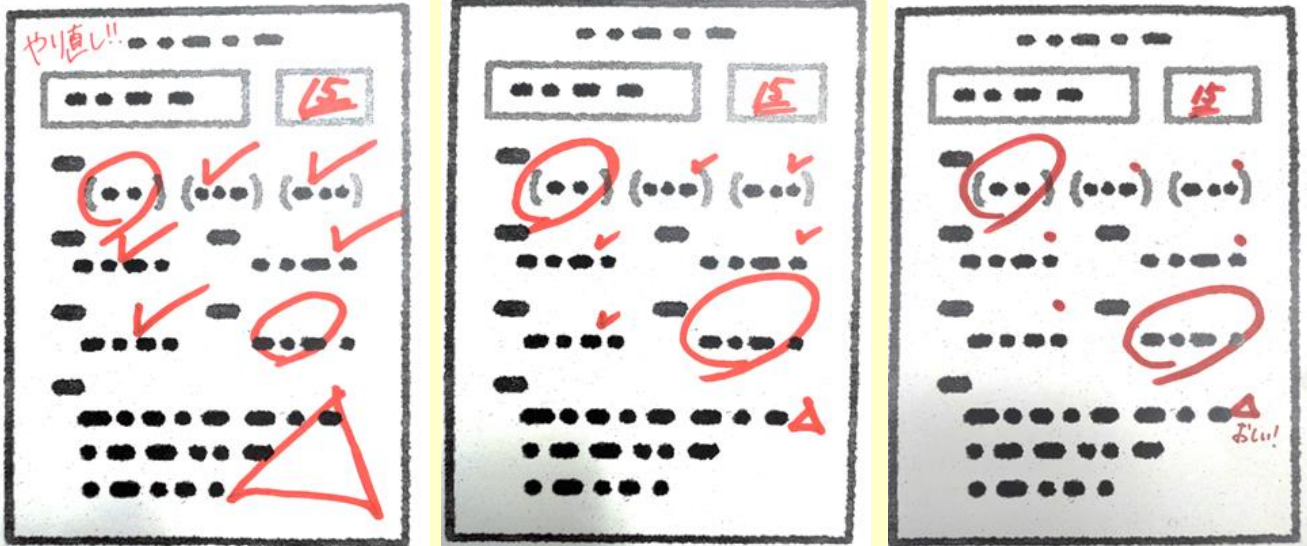
やる気まんまんだね！
よく気が付いたね！



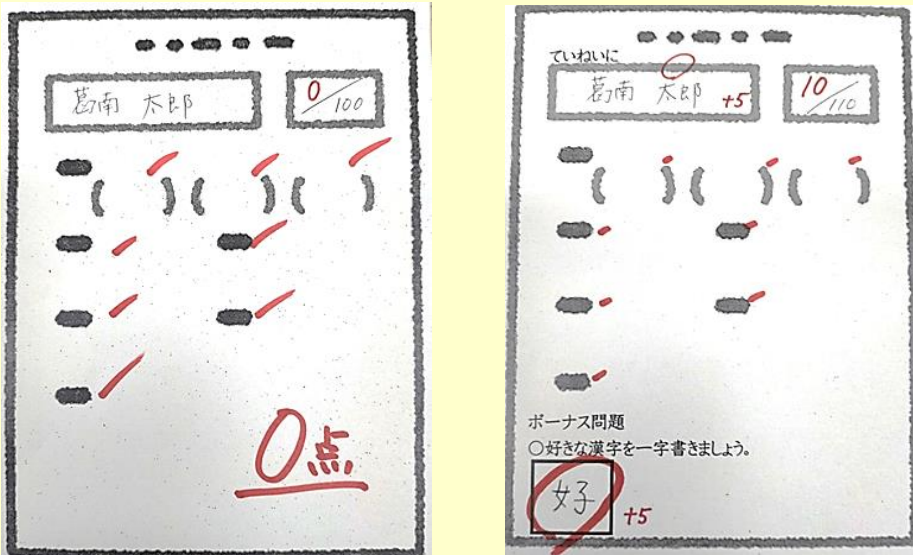
Point 2 ~添削の工夫~

★ワークシートやドリル、テスト等の添削が児童生徒の手元に返ってきた時に、赤で書かれた○×やコメントを見た児童生徒がどのように受け止めるかを考え、意欲が高まる工夫をします。特に、×が多くなってしまう児童生徒の心情に配慮します。

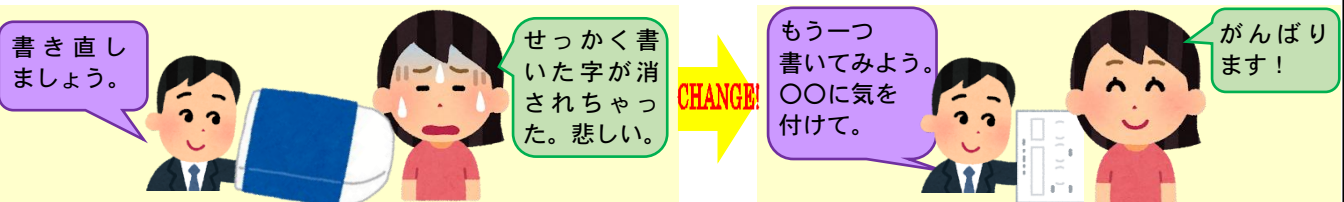
★3種類の採点例を見比べてみます。印象が大きく違います。



★ボーナス問題を用意したり、丁寧な記名に加点を与えたりすることで、0点にならない配慮をしている教師がいました。このような場合は、採点方法と成績の付け方について、保護者に説明しておくことも大切です。



★書いた文字を消しゴムで消すと悲しい気持ちになることがあります。特に、児童生徒が書いた文字を教師が一方的に消してしまうと、自分の表現を否定されたように感じ取る児童生徒もいます。そのような場合には、消さずに書き直す方法を工夫します。



書き直しましょう。

せっかく書いた字が消されちゃった。悲しい。

もう一つ書いてみよう。〇〇に気を付けて。

がんばります！

Point 3 ～多面的な見方、多様性の尊重～

★学習状況やテストの点数ばかりでなく、日頃から児童生徒の様子を多面的に見て、優れていることや努力していることを見付け、認める関わりをしていきます。学習の場面での関わりが多ければ多いほど、児童生徒の他の面に目を向けることを意識します。学力は、児童生徒の一面にすぎません。添削業務等に追われる中で、児童生徒を見る目が偏らないように気を付けます。



★人は多様であること、多様な人々が尊重し支え合い認め合える「共生社会」を形成していく一員であること、違いを認め合い協力し合うこと等を、日頃から学級（学校）全体で考えていくようにします。

★一つの学級の中にも多様な児童生徒がいることを意識し、教師は児童生徒の様子を確認しながら、児童生徒が「誤りがち」な状況を分析し、誰にでも過ごしやすい教室環境や誰にでも分かりやすい情報提示、誰にでも取り組みやすい活動方法等を検討していきます。

★「誤り」は「新たな気づき」につながる一歩です。誤った答えを尊重して学び合えるような雰囲気づくりが大切です。そのためには、児童生徒が、「否定された」「失敗した」と捉えずに「誤り」を受け止められるような、教師の関わりが大切です。



児童生徒は、教師の言葉や表現から、様々な感情を受け取っています。いつも、受け取る児童生徒の立場を考え、教師自身の言動を顧みながら、よりよい表現を考えていきましょう。まわりの教師の言動も参考にしていくとよいですね。

〇〇先生のあたたかな児童生徒の見方、参考にしよう！

〇〇先生の授業では〇〇さんの様子はどうか聞いてみよう。

〇〇先生が使っている授業グッズ、借りて試してみようかな。

〇〇先生の言葉掛け、素敵だな！まねしてみよう。

〇〇先生の話し方はとても聞きやすくて分かりやすいな。何が違うんだろう。



チーム学校